

小さき春風達と幻想の  
者達 (一時更新停止)

Kurokodai

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

いつもの様にゲームをしながら過ごしているごく普通の高校生

しかし、ある日を境に彼の日常は『非日常』へと変わって行くのであった

※この作品は息抜きに制作されたものです

苦手な方はブラウザバックを推奨します

# 目次

第0話	プロローグ	1
第1話	ピンクの悪魔は存在しなかった	10
第2話	目田内藤さん	20



# 第0話 プロローグ

皆さんは、ゲームをやったことはありませんか？

ゲームは1950年代前半にバウンシングボール(Bouncing Ball)というコンピュータゲーム？が作られたのが始まりで、そこから現代までにはこの日本では任天堂にソニー等の会社の開発したゲームに、さらには同人ゲームにフリーゲーム等のゲームも作られるようになった

お陰で今の日本は、ゲーム大国なんて呼ばれるようになってしまった

もう、侍の国とは見る影もなくなってしまった

おっと、話がずれてしまった

つで、ゲームをやっている人からはこう思っているはずだ

ゲームのキャラに会いたい

ゲームの世界にいつてみたい

と

普通に考えれば・・・いや考える前からそれは不可能なことだ

何しろゲームは、人によって作られたものだから

実際にあつたことをゲームにしているのではない

人が考えて、人が楽しむために産み出したのがゲームと言うものなのだ

つまり、ゲームの世界はすべて「作りもの」となっているということだ

だから自分は信じなかった

自分は今日までは信じなかった

あ、どうも！はじめまして

俺の名前は星川歩夢といいます

どこにでもいるような高校一年生です  
特技は歴史と体育ぐらいで、苦手なものは……

理系すべてだ！くそつたれ！

おつとつい本音が出てしまったw

あとはまあ、よくゲームをすることだなあ

やるゲームと言えば任●堂やソ●ーはもちろん、同人にフリーゲームもよくやる  
え？何？俺ボツチなのかって？

よし、チョット表に來いや（ωゝ#）

く暫しお待ちくださいく　　くあうっ！

待たせたな！

つてヘビの台詞をいつてる場合じゃねえな

ていうか、俺にも友達はいるぞ

まあ、大体はゲーム友達がなあ

とまあ、いろんなゲームをやって来ていたが、その中でもとてもよかったのは、やっぱ『星のカービィ』かなあ

昔のやつもいいけど、最近では過去にあったアイテムやボスが再登場したり、ボス戦やステージの BGMがとても神曲でもう発狂してしまうくらい面白くてやばいんだよなあ

え？他のゲームはだって？

カービィの次とならやっぱ『東方 project』かなあ？

キャラの立ち絵もそうだけど、シリーズに出てくる音楽も弾幕の配置も本当に一人で作ったのか？というほどの作品だった

とまあ、こんな感じで俺は学校生活とゲーム生活を楽しんでいる

ちなみにこの家には俺しかない・・・というより俺しか住んでいない

何？天涯孤独だって？何をいつてるんだいワトソン君

俺の親は今も健在だよ

この家は両親が高校の通学のために買ってくれたものなんだ

俺の父ちゃんは、とある巨大企業の幹部をやっているんだ



おまけの業績も良いとのこと

母ちやもは世界トップクラスのデザイナーをやっている

だからこんな一人には広すぎる家を買ってくれたんだよ（涙）

せめて、マンションか普通の一軒家が良かったなあ

でも、一人暮らしにはとても憧れていたから、そこに関しては両親に感謝しないと

なあ

—————

歩夢「ハア、疲れた」

やつぱは部活帰りは結構体にくるなあ

もう全体的に筋肉痛だわ

取り敢えず、帰ってきてやることは・・・

歩夢「よし！ゲームやろう！」

帰ってやる事とは思えない

普通なら勉強をするのが普通と思うが

俺はまずは癒しが必要なのだ

さあ、星のカービイをやるぞ！

～一時間後～

いやあ、いいよなあ

BGMはもちろんのこと、システムもよく作り込んでいるよなあ

やっぱカービイは最高だわ

おっと、時計を見てみたらもう7時半じゃないか

そろそろ晩飯を作らないとなあ

歩夢「いざ、参らん戦<sup>現在</sup>国のキュイ<sup>台</sup>ジーヌ<sup>所</sup>！」

～45分後～

歩夢「ふう・・・やつとできた」

今日の晩飯はスパゲッティミートソース（NO虎太郎作）にサラダです  
ちなみに俺は一応料理はできる

一人暮らしするにはそれくらいはやっておかないとなあ

小さい頃からの経験がここで生かされているから良かったよ（涙）

さて、いただきm

歩夢「おっと、フォークを忘れていたわw」

俺って何やってるんだろう♪

食事するのにフォークを忘れるとか原始人か俺は

すぐさま、俺は壁越しにある食器棚から大きめなフォークを取り出した

よし！これd

ガチャガチャ

むむっ？俺のスパゲッティ晩飯のあるリビングからなんか物音が聞こえたな？

まさか、泥棒か？

それも飯を盗み食いするだけの泥棒か？

それだったらそいつは傑作アホだなw

よし、では携帯電話（110入力完了）を手にして、よし！

いざ出撃通報じゃあ！

ガチャッ

? 「うんにゅ〜♪」

居たのは人間ではなく、スパゲッティを食っている生き物だった

生き物? いや、猿とか狸とかそういうものではない

その生き物の姿は、桃色と丸い体をしていて、足は赤色のものであった

その生き物の瞳はまさに癒しを与える様な瞳と小さな口

その生き物はまさにこの世界にはいない存在だった

歩夢「……」

? 「……」

俺がその生き物を見て、硬直していると、その生き物もこちらに気づいて口を止めていた

しばらく静粛が続いたが、最初に声を発したのは

? 「ぼよ♪」

ピンクの悪魔だった

その後には俺は

歩夢「ええ絵江急エ!?!」

普通では発しない声で悲鳴をあげてしまった

これが俺の非日常への始まりとなるのであった

続く

## 第1話 ピンクの悪魔は存在しなかった

俺は今頭を抱えていた

俺はすぐに現実逃避したかった

その原因となっているのは・・・

？「ぼよっ♪」

テーブルの上に座っているこいつであった

俺はこいつのことは会った時から嫌ほど知っていた

こいつは確か『星のカービィ』シリーズに登場する主人公ピ<sup>カ</sup>ピンクの悪魔<sup>ビィ</sup>だった

初代では敵を吸い込んで、吐いたりして倒して行く者であったが、夢泉からは新たな力『コピー能力』を手に入れ、その力で敵を飲み込み、敵の持つ能力を自分のものにすると言うチート者へと進化したので

ちなみにサイズは原作よりも小さく、言えばフィギュアぐらいの大きさだった

俺は別にそこは良い・・・そこだけは良い

ただ問題なのは・・・

こいつの食欲である

こいつの食欲は底知れぬ胃袋を持っていて、一度食せば、その地の食料は全て消え失せてしまうと言うまさにピンクの悪魔と呼ばれるほどの食欲であった

こいつによつて俺が食べようとしていたスパゲッティ等はすでに胃袋の中へと消えてしまった

ああ・・・俺の晩飯があ（涙）

え？インスタントはないのかって？

実は俺インスタント系を食ったことがないんだよ

いつも飯の時は俺が作っているからだ

その為この家にはインスタント系は置いていない

今更料理をしたところでまたこいつに食われるだけだし・・・

それに今だけでなく、これからもこいつはいるかもしれないから、すぐさま冷蔵庫の中が浄化食わされてしまふだろう

買い出しに行つても同じだ

そうなつたらすぐに財布の中がスツカラカンになる

やべえ、すつげえ腹が減ってきた

歩夢「はあ、どうしようかなあ」

カービィ「ぼよ？」

ため息している俺にカービィはこちらに見てきた

おいおい、もう飯はないぞ

てか俺の飯返せよ（涙）

カービィ「ぼよっ」ピヨン

と思っていたらカービィは台所へと向かっていた

この行為から見て考えつく答えは・・・

俺の冷蔵庫生命線が危ない

まずいぞ！このままでは冷蔵庫の中身全てが奴の胃袋の中へと消えてしまう

それこそ、絶☆体☆絶☆命である

俺はすぐに立ち上がり台所へと向かった

奴から俺の冷蔵庫生命線を死守しなければ



俺はついに台所戦場にたどり着き、第1種戦闘配置をしようとした

だがそこで見たのは、冷蔵庫を物色する姿ではなく、オタマを手にして飲み込もうとする姿であつた

あ・・・オワタ＼（＾o＾）／

それではここで皆さんに問題です

このあとカービイは何になるでしょうか？

- A. 柳刃竜一
- B. コック
- C. k w s k
- D. ヌスレットさん（塩振り男）

正解は？

歩夢「越後製菓！」

じゃなくて、カービイは目の前でシェフが被るコック帽をつけ、手にはひとつのフライパンが握られていた

その姿は星のカービイに出てくる敵を震え上がらせた能力、コック食カービイである  
その力は敵を全て回復食アイテム料に変えてしまうという恐ろしい能力である

確かこの能力はスマブラXでも切り札としていて、他のプレイヤーをデカイ鍋に吸い込ませ、回復アイテムを生み出す（プレイヤーが食料になるとは言っていない）はずだとなると・・・

俺は今大ピンチ

と思っていたがそれは遅くカービィは能力を発動しようとしていた

歩夢「うわっ!?!やべえ!!」

能力を発動して、そこにデカイ鍋が・・・現れなかった

歩夢「あっあれ?」

あれ?おかしいなあ、確かコックって敵を食料に変えるもの筈なんだけどもなあ  
と思っていると、カービィはフライパンを大きく振り

カービィ「(カービィスパゲッティ!!)」

なんか発言したんだけど

てかカービィスパゲッティって何?

まんかまらずそう・・・

なんて思っていると、フライパンに緑色の何かが見れて、それを宙に浮かせた  
ボンッ!

光がなくなつたと思うと目の前に少しデカイスパゲッティセットが生み出された  
あ！そういうえばカービイってアニメもあつたなあ

その時に出てきたコックつて確か無から食料を生み出していたなあ

確か（カービイステーキ）と（精進定食）だつたなあ

だが何故、このスパゲッティを生み出したのだろう

・  
・  
・

まさかこれを一人で食うつもりかなあ

まあ、生命線冷蔵庫が何とか阻止されたけど

カービイ「ういう…」

何と食い意地の張つたカービイがそのスパゲッティを俺に差し出してきた

何このピンクの天使

めっちゃ可愛いんだけど・・・

歩夢「え？もしかしてこれ俺にくれるのか？」

カービイ「うい！」

この時に俺は思つてしまった

目の前にピンクの悪魔は存在しなかったと

歩夢「あつありがとう」

カービー「ぼよっ！」

俺もお前のことを悪魔と思い込んでごめんな

嬉しいけどこんなには要らないんだよなあ

ここは、さつきカービーに食われた分を皿に乗せて、後は……

歩夢「これはおまえにやるよ」

カービー「ぼおよ！」

ものすごい嬉しそうな顔で言っけきやがった

やめて、その笑顔は反則や

とにかく俺はすぐにカービーが作った？スパゲッティを口に含んだ

あ……やべえこれ、めっちゃ旨いんだけど

歩夢「ところでカービー、お前どこからきたんだ？」モグモグ

カービー「ふい？」モグモグ

歩夢「わからないのか？」モグモグ

カービー「ぷおよ」モグモグ

どうやら本人もよくわかっていないようだ

全くおかしいことだなあ

日常な日々が非日常になってしまうとは

とまあ思っている、スパゲッティがもうなくなつた  
てか食っている時に喋るとか、行儀悪すぎだろ俺  
さて、食つたら皿洗いをするか

※カービイスパゲッティの皿は何故か消えていました

—————

やることも終えて、ゲームもやったしもう寝ようかなあ

あ・・・

カービイの寝床はどうしようかなあ

夜にいきなり現れたから家具なんて用意してないよ

てか、普通は現れないからなあ

取り敢えずタオルを持ってクツションをベッド代わりにしておこう

〈3分後〉

〈3分間待ってやる！〉

何とか寝られる程度にはなつたなあ

これで一応カービイも安眠できるだろう

歩夢「カービイ、これがお前のベッド（仮）だぞ」

カービィ「ぼよ！」ピヨイ

モゾモゾ

カービィ「ぷいゆ！」ピヨコ

ベッドに入り込み、タオルの中に潜ったと思っただけいきなり気持ち良さそうな顔をタオルから出した

何だこいつ、鼻血を出させるつもりなのかこいつ

まあ、気に入ってくれたなら良いか

俺はすぐに自分のベッドに入り込んだ

歩夢「おやすみ、カービィ」

カービィ「・・・」

ピヨン！

歩夢「え!?!ちよっ」

ピヨコ

カービィ「ぼよっ♪」

ベッド(仮)を作った意味が無かった

まさかのこっちに來るとは

しかもなんかめっちゃ近い

ああ、これは多分懐かれたのかなあ？

まあ、いいや悪魔じゃないみたいだし

歩夢「それじゃ、本当にお休み」

カービー「うい」

この言葉を最後に俺たちは深い眠りへと落ちていった

ちなみにこの時の寝心地はとても良かった

—————

？「この気配は何なのかしら？外の世界から私たちの幻想？と同じ感じがするけど、何処から来ているのかわからないわ。」

## 第2話 目田内藤さん

カービイがこの家に来て、3日が経った

今の所は何の支障は出ていない

料理の方もカービイが自分で作っている？ことであまり出費がなく普通に暮らすことができた（少しもらっている）

学校の方も影響はないし

非日常のものとの暮らしもこれはこれで良いと思う

そう思っていた

ゴ●リ「ん？何これ？」

—————

今日は休日であった為いつものようにゲームをしようとしていた所



小さいが何やらエンジン音が聞こえて来た

最初は車かなんかと思っていたが、この音は今までに聞いたこともない音であった  
するとカービイが何処かへと案内したいような顔でこちらに見つめて来た

最初は無視をしていたが、今度は俺の服を掴んで、引っ張る展開になってきた  
ええ・・・まだなんかあるのかなあ

俺はカービイについていきある場所にたどり着いた

そこは俺がリラックスするのに使っている風呂場であった

俺の風呂場は、お湯張りが自動であり、何よりちよつと大きい

カービイもこの風呂を気に入っているみたいだ

一昨日に入らせた時は、はしゃいで風呂の中を泳ぐと言う行為（あまりの行為に萌え  
死ぬ所だった）をやっていたし

別に不便はない

風呂に謎の小さい建物と戦艦がなければの話だが

ゴ●リ「ん？何これ？」

—————

ここは一体？

目の前に見えるのは、熱湯が一面にある湖？だった

この場所は私でも知らない場所だ

私はこれまで鏡の世界に絵画の世界、毛糸の世界に行った事はあるがここはこの三つに世界には当てはまらない

私の知らない世界なのか？

再び厄介なことになったなあ

幸いなのは、私の部下たちが共にいることだ

私の船も無事の様だ

？「リアクター1出力良好。」

？「パランサー調整0003です！」

では、ここで私がやる事は・・・

？「いかりをあげるだす。」

？「反重力プラントチェック。1、2、3番OK!!」

？「セイル解放、ソーラーレベル288！」

この知らない世界で・・・

？「機は熟した。今こそ、我らの力を見せる時！」

私達のための世界を作る！

？「だらくに満ちたこの世界をこの手で変えてく」

ゴ●リ「ん？何これ？」

—————

え？これってまさかあの有名な戦艦ハルバード艦落船か!?

すげえ！本物みたいなものを見るの初めて！

あれ？なんかこれからエンジン音が聞こえるんだが

もしかして、本物？

え!?!それは目田内藤に会えるってことか!?

俺は早速ハルバードを手で持ち、中を覗いて見た

いるいる、メイスにアックス、ジャベリン、トライデント、水兵ワドに鳥

メタナイツメンバーがちゃんという

なんかみんな俺を見て、慌てているみたいだけど

それより内藤はどこだ？

「おついたあの変な仮面を顔につけて、体はマントで隠し、仮面の下を見たら者は永遠の幸せをもたらす力？を持つ目田内藤だ

一応声をかけてみよう

—————

ジャベリン「メタナイト様！敵の襲来です！」

アックス「突然の奇襲で攻撃準備ができておりません」

鳥「ええい！へびーロブスターを投入しろお！」

メイス「だめだス！投入口が塞がれていて出せないだス!!（涙）」

チキン「なにいつ！」

水兵「たいへん！たいへん！どうしよお！」

悪く思わんでください人「あひえええええ！この艦はもうだめだあ!!わしは逃げるう

！

まさかこんな早く襲撃されてしまうとは

もはやこれまでか・・・

メタナイト「クルー全員に告ぐ！至急本艦より脱出せよ」

歩夢「あのー、すみません。そこから出てきてください」

メタナイト達「「!!」」

いきなり、襲撃して来た者から声が発せられた

しかも、攻撃するのではなく、この船から出てくれと

これは何かの罠か？

だがこのままではさらに悪化するかもしれない

・・・仕方ない

メタナイト「再びクルー全員に告ぐ。一旦外へ移動するぞ」

アックス「メタナイト様！いいのですか!？」

メタナイト「ここで抵抗するより、まず相手の事情を聞いてみよう」

もしかしたら戦わなくても、私達の世界を作り出せるかもしれない

ならばその可能性に賭けてみるのも悪くはないだろう・・・

—————

俺の要求に応じたのか、内藤さん一行がハルバードから出て来た

よかった、ここで戦争なんか起きてしまったら、家が滅茶苦茶になってしまうから

なあ

それよりも内藤さん、カービーよりも小さいなあ

原作やアニメでは少し大きい筈だけど

まあ、そこはいいとして早速会話をしないと

歩夢「初めまして、俺の名前は星川歩夢といいます」

メタナイト「歩夢殿か、良い名だな。それで私は・・・」

歩夢「知ってるよ。目田内藤さんでしょ？」

メタナイト「・・・」

あれ？内藤さんが急に黙り込んでしまった

俺なんか言ったかなあ

メタナイト「・・・がう・・・」

歩夢「ぼえ？」

メタナイト「違ーう!!!」

歩夢「!？」

あ・・・もしかして呼び名が宜しくなかったのかなあ

だってこの呼び名は谷●さんのメタナイトで言われたことがあるからねえ

メタナイト「私はメタナイトという名前であり！断じて内藤ではない！」

歩夢「あー、はいはいわかりました（棒）」

メタナイト「何棒読みになっておるのだ！」

あはは、なんかコントみたいなのが始まってしまったぜ

しかもメタナイトたちも今に吹き出しそうな顔になってる

・・・お前ら、いい性格じゃねえか

歩夢「つで、どうしてその戦艦を動かそうとしたんですか？」

俺はそう言つて、ハルバードに向けて指を指した

メタナイト「ああ、それは・・・」

く内藤説明中く　　く内藤では無い！

歩夢「ああ、なるほど。要は俺の家を君達が住みやすい場所にする為かあ」

メタナイト「うむ、その通りだ」

原作でも、大体ププランドの制圧目的は侵略者に対策するためのものだしなあ

そりゃあ知らない所に来てしまったら、自分たちが安全で住みやすい様にしたいと思

うよ

なんかちよつと可哀想だなあ

歩夢「別に制圧しなくても良いよ」

メタナイト「?、何故なのだ?」

歩夢「だってここで普通に住めば良いじゃない?」

メタナイト「なっ!?!いいのか!?!」

歩夢「もちろんさ☆(ド●ルド)」

そんな侵略しないで、楽しく暮らした方が俺的には良いと思う

だから俺は、戦いにならない様に言ってみた

果たして・・・

メタナイト「・・・本当にいいのか?」

歩夢「もう、だから良いって言ってるじゃん」

メタナイト「・・・感謝する歩夢殿」

そんな訳でメタナイトが仲間になったよ

やったねたえちゃん!家族がふえるよ

閲覧者「「おいはかやめろ!」」

続く